

子どものスポーツと教育

——学校の内外のスポーツについて考える——

石田 智 巳

体育科教育学という領域で、体育授業にかかわった研究を行っています。領域全般を浅く広く、「運動技能と運動認識」、「佐々木賢太郎」、「バスケットボール指導」、「教材論」を深く、スポーツ文化論を浅く研究しています。現在の関心は、スポーツと貧困です。

1. 専門演習の目標

勝利至上・現金至上主義のもと、大人に囲い込まれた子どものスポーツ。高度化するプレーの水準と置き去りにされた学校体育。「やる子とやらない子」や「できる子とできない子」の二極化。こういった問題状況や社会状況を認識し、学校体育や地域スポーツでは今後何をすべきなのか、何ができるのか、を自分の言葉で語り、文章化できるようになる。最終的には卒業論文を作成する。

2. 専門演習で扱う課題と内容

スポーツと教育を狭く捉えれば、主として教師による体育授業や部活でのスポーツ指導が、広く捉えればスポーツ少年団やスイミングクラブ、野球のリトルリーグやボーイズリーグなどのインストラクターやコーチによる指導が考えられる。そこで、①「学校体育はどんな教科か」に対する主張の主なものを取り上げ、そこででのスポーツの位置づけの違いを検討する。②子どもとスポーツ、スポーツと教育をめぐる諸問題を取り上げて論点を浮き彫りにする。特に、スポーツと貧困を中心とする。③子どもとスポーツの研究論文にあたり、対象と方法についての理解を深める。

3. 授業の進め方・内容

3回生：前半は思考を鍛えるトレーニングを行う。後半からは、各個人が興味ある内容をもとにテーマ別の小グループ（3～4人）を編成し、それぞれのグループで研究対象の広がり、研究方法などについて調査して発表する。すべての発表を終えた段階で、再度グルーピングを行い、最終的には調査研究を行う。

4回生：3回生で学んだ基礎をもとにして、個別にテーマを絞り込んで卒業論文作成を目指す。

4. 必要とする知識

学校教育やスポーツに関する記事が日々新聞紙上を賑わせているが、それらに目を通しながら、今の教育界の問題点やスポーツの抱える問題などの知識を持って欲しい。

5. 関連する分野・科目・知識

子どもとスポーツ、保健体育科教育研究Ⅰ、初等体育科教育法、スポーツ文化論

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

文献は、必要に応じてこちらから紹介するが、必要な文献を手に入れる方法についても学習してほしい。

7. 独自に付加する選考方法

面接を行うこともあります。

8. 受講生に望むこと

多くのことがらには対立する二つの立場、あるいは、いくつかの立場がある。その対立の論点を読み解くこと、それぞれに批判的な観点を入れてみることで、新たな自分の考えが構築していけると考えます。そのため、自分の頭で考えることを望みます。